

『子ども理解』を土台にした学級づくり

稚内市教育相談所 所長 平間 信雄

1. はじめに
2. ■『子ども理解』の領域について（理論編）
 - ① 学校教育・社会教育・家庭教育の三つの領域
 - ② 学校教育・家庭教育・社会教育のそれぞれの努力と相互連携の分野
3. ■『子ども理解』と保護者の責任
 - ① 保護者責任が果たし得なくなっている事態の進行と立法措置（理論編）
 - ② 保護者責任が果たし得なくなっている事態の進行の中での生徒指導理論の改善（理論編）
4. □『子ども理解』と稚内の学校現場（研究紀要 53・平成 20 年度）
 - ① 児童生徒理解は何のためにするのか？目的意識を明確に持つこと
 - ② 教師のスタンスは、受容的な態度で接しながら、目的意識からずれない芯をもつこと
 - ③ 日常的な観察・会話・班日記などを通して、チームとして子どもを見ていくこと
5. □『子ども理解』のためのポイント（研究紀要 53・平成 20 年度）
 - ① 事例発生からではなく日常実践の連続の中から
 - ② 場面のコマ合わせでなく多面的総合的理解を
 - ③ 経験に比例するほど直接的な理解から間接的理解を重視している特徴を学ぶ
 - ④ 子どもを丸ごと受け止めて行動の裏にある心に目を向ける
6. □『子ども理解と』と教師の力量 ～経験差が大きな課題～（研究紀要 53・平成 20 年度）
 - ① 「積極的意図的な児童理解」の実践、
 - ② 児童の様子や変化をつかむ“コツ”をどう身に付けるか
 - ③ 児童理解の実践や学級経営・集団づくりの実践をどう“受け継ぐ”か
7. □「失敗しながら親や子どもに鍛えられていく」教師育ちが子ども理解のキーワード
役に立つ教育実践の形は、9割の失敗が土台になって花が咲いたものばかり。だからその形を真似するのではなく教訓を学ぶこと。
 - ①子ども像～「よく見て、良く聞き、よく考える子」
「白黒斑、ジグザグ発達途上人」「白黒斑、行きつ戻りつ、ジグザグ発達途上人」
「自分のことは自分で、みんなのことはみんなで」
 - ②教師像～「先生はいつでもかつでも先生だ」「学者（研究者）に学んでも真似するな」
「子どものことは子どもの中に入って、親のことは親の中に入って」
「子どもに学び、仲間に学び、全国に学ぶ」
 - ③保護者像～「子育ては、金かけないで愛かけて」
「“風呂”“飯”“寝る”“は子育て・介護の三原則」
「今、子育てに必要な栄養は“ビタミン愛”」
「子育ては、押しつけないで、追い込まないで」
「社会性の目覚めは、“ほめ方・叱り方”で決まる」
「あんたの勉強に負けないために勉強するのさ」

だから、グループ交流・協議では、悩みと失敗の交流で結構！